

抗がん剤投与時の日常生活の注意

多くの抗がん剤は、骨髄細胞に影響を及ぼし、白血球減少、貧血、出血などの副作用があらわれることがあります。薬の影響で、白血球が少なくなると病原菌（細菌）に対する体の抵抗力が弱くなり、感染症を起こす可能性があります。以下のような症状があらわれたら担当の医師、看護師または薬剤師に相談して下さい。

感染症が疑われる症状

- 38℃以上の発熱
- さむけ、ふるえ
- せき、のどの痛み
- 下痢・腹痛
- 排尿時の痛み、血尿、頻尿^{ひんによう}、
排尿後も尿が残る感じ
- 肛門痛
- 皮膚の発疹、発赤
- おりものの増加、性器出血、陰部のかゆみ
- 歯肉痛、歯痛



病院で行われる感染症の対策

- 血液検査(白血球数, 好中球数など)
- 白血球を増やすための薬
- 抗生物質

副作用をひきおこしたり、また、深刻な状態におちいらないためにも、日常のちょっとした注意が必要です。

患者さんの日常生活上の注意

●: 勧められるもの

- 手洗い(食事の前, トイレの後, 帰宅時)
: 石けんを使って, 指の間, 指先, 親指, 手首もよく洗う。
- うがい(起床時, 食事の前, 帰宅時)
: なるべくうがい回数を多くする。
- 食後, 寝る前の歯磨き。

- トイレの後, 肛門の周囲を洗淨する。
- 体を清潔に保つ(入浴, シャワー)。
- 皮膚を乾燥させない(ローション・クリームで保護する)。
- 切り傷に気をつける
：ひげそりは電気カミソリで。爪は短く切っておく。
- 庭いじり, ペットの世話には手袋を使う。
- 風邪, 百日咳, 水ぼうそう, 麻疹, 風疹の人には近づかない。
- インフルエンザなどの予防注射は事前に
医療スタッフに相談する。
- 熱っぽい時や白血球減少をおこす時期には体温を測定する。
- できるだけ人ごみは避ける。

副作用のあらわれ方には個人差があり, すべての患者さんに同じ症状があらわれるとは限りません。でも, 予想される副作用については, 日常生活のちょっとした注意で対処できる場合もあります。副作用を上手にコントロールし, 無理のない毎日を送りましょう。

